

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072500410		
法人名	社会福祉法人 高瀬会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム もみの樹		
所在地	和歌山県東牟婁郡古座川町高瀬423-2		
自己評価作成日	平成26年2月	評価結果市町村受理日	平成26年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/307/ndex_php?acti_on_kouhyou_detai_L_2013_022_kihon=true&amp;li_gyosyoCd=3072500410-00&amp;PrEfCd=30&amp;Ver.sj.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/307/ndex_php?acti_on_kouhyou_detai_L_2013_022_kihon=true&amp;li_gyosyoCd=3072500410-00&amp;PrEfCd=30&amp;Ver.sj.onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成26年3月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「旬の食材を食したり、季節感あふれる行事を取り入れて可能な限り季節を感じることでできる支援」の実現をテーマに運営しています。地元の保育所や食事会に出向くことで地域交流を深めています。ご利用者様同士が役割を分担して支援し合う関係が生まれており、ご利用者様も職員も誰かの役にたっている事を喜びとして生活を築いています。今後も事業所理念通り笑顔に絶やさず明るく生活して頂けるように家庭的な落ち着いた雰囲気の中で共同生活を営んでいただきたいと思います。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「明るく笑顔のたえないホーム」をテーマに、心地よく安心して生活できるよう努めており、質の高い運営がなされている。地域との関係を大切に、運営協議会や災害協定などに良好な協力関係が築かれている。保育所、小・中学校などとの交流が豊かであることも地域にある事業所としての働きを豊かさを示している。職員は業務に責任と誇りを感じて勤務しており、管理者とシニアスタッフのリーダーシップの元に各々の持ち場で役割を果たしている。一時的に事業所が目指す人員配置に満たない状況にあるが、異口同音に「ホームの良さは和気藹々」と笑顔で語り、入居者への温かいまなざしを感じることができる。大規模な水害を経験し、水害に備えた地域と共用する避難用駐車場の設置、区長を含む連動通報システム、量と質を検証した2週間分の食料備蓄、地域との災害時協力協定、専門家との協働による防災計画の検討など、災害対策に非常に熱心に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から「いつも明るく笑顔の絶えないホーム作」を理念として実践してきた。「入居者に家の次にここがよいと感じてもらいたい」、「自分から笑顔を向けていく」など、職員は意欲的であり、日常的に理念を意識して実践しています。	理念に基づき、笑顔に満ちた家庭的で安らぎのあるホームを目指して努力している。堅苦しくなく且つ丁寧な言葉使いや呼名の仕方に、家族的で良好な信頼関係を築こうとする職員の姿勢が感じられ、入居者の思いを導き出し実現しようと意欲的に関わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の行事に地域の方々を迎え、積極的に交流が図れている。入居者が保育所や地域の食事会に出向いて地域の方と交流しています。	町が開催する「いきいきサロン」での食事会や保育所の訪問などを通じて交流を図っている。小学校と法人が合同の運動会を実施したり、中学生の福祉体験学習の受け入れを継続するなど、様々な機会に地域との交流が豊かに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の食事会に参加し、事業所の取り組みをお話させて頂き、少しでも在宅での認知症予防・介護に携わっている方々に参考にして頂ければと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の定期開催を続けており、分かりやすくホームの活動報告をしている。その都度家族様への参加を呼び掛け出席を得ている。活動報告をして意見・助言を求めると運営推進会議を外部からの情報を得る機会と捉え積極的に活用しています。	行政職員・民生委員らの参加を得て定期的に開催され、写真ファイルを用いて丁寧な事業報告が行われている。近隣在住の家族が少なく出席が得にくくなっているが、各委員からは地元行事の案内や誘い、他施設・病院の情報など、入居者の生活に有益な提案や情報が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に担当者との情報交換・相談が行われている。災害対策や苦情対応について具体的なサービスの向上に繋がる成果を得ています。	町の担当者とは継続した人間関係が築かれている。事故事例の報告を通して対応を相談したり、水害体験から地元区長への通報の仕組みを築くなど、良好な協力関係が続けられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内でも「身体拘束委員会」が設置されており、年に数回各事業所の実態、取組みを発表している。利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識に立ち、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫を意識しています。	身体拘束ゼロを継続しており、夜間の戸締り以外の施錠も行っていない。人権を尊重した適切なケアを行うことで身体拘束を生まない自由で安全な生活が実現できることを理解しており、生活リズムの把握を適切に行うことで徘徊行動にも対応できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修計画に基づき継続的に職員が研修を行うことで、理解を深めるよう努力しています。外部研修に参加した職員が後日研修内容を他の職員に伝達しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修計画に基づき継続的に職員研修を行うことで理解を深めるよう努力しています。実際に成年後見制度を利用されている利用者もおられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用料金、起こりうるリスク、退去の要件等をご家族とご本人に説明し、ご理解・納得して頂けるように努めています。介護報酬改定に伴う利用料金の変更時は、ご家族様に個別に説明し同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	対面して意見交換ができるよう家族がホームに来やすい雰囲気心がけ呼びかけにも努めている。誕生会等の行事の他、年2回家族を交えた食事会を開催。運営推進会議への参加呼びかけなどご家族様との交流の機会を多く持ち出席を得ています。苦情受付体制、意見箱も整備されている。	年2回の家族との食事会が定着している他、日頃の面会も多く職員との交流が図られていて、要望を伝え易い雰囲気が生まれている。訪問が難しい家族には積極的に電話をして状況を伝えるとともに要望を聴取する努力を続けている。毎日の様子を伝える「暮らしの様子」シートによる情報提供にも意を用いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや毎月の処遇会議でディスカッションして会議録として回覧している。普段から職員が意見や提案を言いやすい関係、雰囲気作りにも努めています。	毎月1回の処遇会議と給食会議、毎朝20分を要して行う申し送りなどを職員の意見を聞く機会としている。職員もシニアスタッフの取りまとめによって行事や外出、食事の工夫などに積極的に提案を寄せており、運営に関わろうとする意欲が伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により職員個々の面接によって把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修計画に沿って積極的に参加している。管理者は職員個々の特性・能力に配慮した役割分担を行い「任せ委ねる」ことで職員の成長を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム職員が見学に来たり、電話等でお互いの意見・情報交換し、サービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご利用者宅への訪問と施設見学をしていただきます。ご本人が困っていること、不安なこと、求めていることを聴取し、出来る限り受けとめる努力をしています。必要に応じて担当ケアマネの同席を依頼しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご利用者宅への訪問と施設見学をしていただきます。ご本人が困っていること、不安なこと、求めていることを聴取し、出来る限り受けとめる努力をしています。必要に応じて担当ケアマネの同席を依頼しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人・ご家族の実情や要望をもとに何が必要か見極め、必要に応じて他のサービスの利用調整を行うなど、安心・納得して利用していただけるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の聞き取りによりアセスメントして入居者理解を図っています。ご本人の経験や力を発揮できる場面(調理・洗濯・軽作業)を多く作れるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人の生活歴を出来る限り把握し、その方の経験や力を発揮できる場面を作れるよう努力しています。また、随時面会・外出支援の機会を促す連絡もとっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別処遇として今まで住んでいた地域に出かけ、知人や友人との会話を楽しむなどの支援を行っています。また、暑中見舞いや年賀状のやりとりを行い、これまでの関係を継続していけるよう働きかけています。	近隣3町からの入居者を迎えており、各々出身の地域での墓参などを実施している。家族との宿泊を伴う外出も行われている。日常的に併設デイサービス利用者との交流を続けており、退居者やその家族とも賀状を通じて交わりを継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が共同で作業を行う場面作り、ご利用者一人ひとりが得意な事を行って頂き、それを他のご利用者に認めて頂ける場面を作れるよう配慮し、日々のケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方に会いに行ったり、また、そのご家族との年賀状のやりとりや行事のご案内を送付するなどの支援を行い、関係を断ち切らない付き合いを大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動、表情等から思いや希望を把握し、それが可能な限り実現できるよう職員・家族を交えて相談を行っています。	毎朝の申し送りと毎月の処遇会議によって意向の把握に努めている。生活習慣や景観から生まれる行動を理解すること、自分で言い出せない入居者の思いを汲みとること、発言の裏にある本当の思いに気付くことができるようシニアスタッフが指導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報提供頂き、アセスメントに落としこむ作業を行っています。入居後もより詳しい資料が作れるようご家族様も含めて情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はご利用者一人ひとりの生活リズムを申し送りノート・個別記録・ご利用者との関わりにより、現状を総合的に把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族と関わりをもつなかで、希望や思い等の情報を収集し、ケアカンファレンスを実施し、ご本人が生きがいを持って安心して生活できるよう話し合いを行っています。	毎月1回のケアカンファレンスでモニタリングと計画作成を行っている。毎日の申し送りを集約してカンファレンスに提出することで小さな変化を確認し、介護計画に反映させている。家族との連絡が密になされ課題や希望を収集することができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に毎日の様子や状態、気づき等を記入し、業務に入る前に必ず確認して情報の共有に努めています。また、それを介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内事業所や他事業所と連携を図り、インフォーマルなサービスも含めてご本人・ご家族の要望に柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町職員、民生委員、地域包括支援センター職員、ご家族に参加して頂き、地域の資源を活用できるようにアドバイスを頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人・ご家族の希望を伺い、かかりつけ医を決定しています。通院介助もご家族の都合で行けない場合は職員が行い、その結果を報告しています。	入居者の多くは入居時の選択によって法人内診療所をかかりつけ医としている。外部のかかりつけ医や専門科の受診は原則として家族が行っている。職員が受診支援することも多く、入居者の様子を家族と共有する機会として活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に診療所があり、状態等に変化があれば気軽に相談できる関係を築けている。夜勤帯における事故や容態急変の場合は、隣接する老健施設の看護職員の応援態勢が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はこまめに面会を行い、ご本人の状態を把握できるように病院関係者やご家族との情報交換に努めている。退院する場合も法人内の診療所と連携する体制が整っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人が多機能サービスを行っていることから、重度化や終末期のあり方について、早い段階から話し合いを行い、ご本人・ご家族の希望やその時々状態にあったサービスを選択して頂けるよう法人全体で連携を図っている。	法人内診療所の医師配置の変更などから事業所内での重度化対応は難しくなっているが、老健や特養など法人の持つ機能を活用して入居者のステージに適應したサービスが提供できるよう連携が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時に備えてマニュアルを整備している。また、法人内で救急救命の研修も定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災通報設備・非常放送設備・スプリンクラーの消防設備が完備され、併設施設との合同による昼間・夜間避難訓練が実施されている。地元の高瀬地区とは法人として災害時の協力協定が結ばれており、非常時に備えています。	法人全体で積極的な災害対策が講じられている。水害に備えた地域と共用する避難用駐車場の設置や区長を含む連動通報システム、量と質を検証した2週間分の食料備蓄、地域との災害時協力協定、専門家との協働による防災計画の検討など、災害対策に非常に熱心に取り組んでいる。	大規模な水害を経験した法人・事業所として災害対策に熱心に取り組んでいる。今後は地域と連携した具体的な水害想定訓練の実施と、県内事業所の指針となり得る避難誘導や備蓄などの災害対策に積極的な発信を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や誇りを尊重し、状況や場面に応じたさりげない声かけや対応を行っている。また、記録や個人情報の取り扱い、礼儀についても研修を行い情報漏洩の防止に努めています。	法人の理念に「高齢者の尊厳を支えるケアの確立」を掲げ、個人の尊重とプライバシーの確保に熱心である。入居者への声掛け、記録の保管、接遇の研修など適切に実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常の会話や表情から希望をくみとれるよう心がけています。選択肢を多く用意する事で、自己決定の場面を生み出すように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の会話の中で、どのような毎日を過ごしたいか聞きとり、一人ひとりの生活ペースを大切にしながら出来る限り希望に添えるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を尊重し、ご利用者と共に衣類等を選び、職員の意見を押し付けないように配慮している。外出に合わせて行きつけのお店を訪れ購入するようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の調理は職員とご利用者が一緒に行っています。一人ひとりの力や状態を把握し、全体の雰囲気作りを大切にしながら楽しんで行っています。ご利用者と一緒にご買物に出かけ食材を選んで頂くなどの支援も行っています。	栄養士の献立によって入居者と共に食材を購入し、毎食事業所で調理している。普通食を基本とし必要に応じてほぐすことを支援している。入居者は買物、下ごしらえ、配膳などで役割を分担している。好天時はベランダで食事やお茶を提供するなど、食事を楽しめるよう意を持ちている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月給食会議において食事の希望が把握され、これを基に栄養士が栄養バランスを考慮して献立を作成している。毎食の食事摂取量と定時の水分摂取量が記録され、「暮らしの様子」シートにてご家族にも報告しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状態や出来る力に合わせて、口腔ケアの声かけや見守り、介助を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録で排便の有無や時間帯等を確認して排泄パターンを把握しています。また、自立心、自尊心に配慮した声かけ・介助を心がけています。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、排泄の自立を目指した支援を継続している。下剤の使用を控え、乳酸飲料などを用いることで自然な排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分補給をこまめに行い、牛乳やヤクルトを飲んで頂く等の支援を行っている。また、トイレ介助時のお腹のマッサージ等も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕方入浴が多いですが、その日の気分や希望に対応しています。ご利用者の好みに合わせた温度調節を行い、温泉浴・檜風呂のどちらかを選んで入浴して頂いています。	午後の時間を中心に全員が毎日入浴できるよう支援しているが、体調や気分に対応して足湯を取り入れるなど柔軟に対応している。湯温や入浴方法のこだわりや希望にも個別に対応して入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えられるように、その日の状態を考慮し活動への参加を促しています。夜間眠れないご利用者に対しては、悩み相談にのったり、温かいお茶を飲んで頂く等の支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に薬の管理は職員が行い、薬の配布、きちんと服薬できるかを確認しています。現在、服用している薬、副作用の説明書きを共有し、状態に変化が生じた場合には記録し、主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の今までの活動の様子や生活歴、趣味を記載した【自分史】を活用し、農作業、園芸、裁縫、手芸等の個々の活動を支援しています。また、定期的に外出の機会を設けて気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	併設施設への訪問、地元の食事会(ふれあいいきいきサロン)への参加、スーパーへの買物、個別処遇(お墓参り・喫茶店)を行い出来る限り希望に添えるようにしています。	併設事業所を利用する知人の訪問や近隣での買物、喫茶、食事会など、入居者の希望に積極的に応えている。希望が多い買物は、併設事業所の協力も得て活発に行っている。また、ベランダでの花や野菜栽培も楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や能力に応じてお金を所持して頂いています。買物時は、ご本人が支払いを行うように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段からご利用者が電話をかけたり、手紙を書く等の支援を実施しています。暑中見舞いや年賀状を家族や知人に出して今まで築かれた関係が途切れないように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂くために、食堂から見えるベランダには時期に合わせた花を植えたり、テーブルに花瓶を置き花を飾る等、少しでも居心地良く過ごして頂けるように配慮しています。	リビングには季節の花が豊かに飾られ、花好きの入居者を楽しませている。リビングからフラットに続くベランダでも花が栽培され、気持ちの良い庭先となっている。温度・湿度の管理を事務室からこまめに行って快適な空間となるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に座れるソファーや畳みの間、掘りごたつ等それぞれ思い思いの場所で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族と相談しながら、馴染みの物や写真等を居室に持ち込んで頂き、安心して過ごせるようにしています。	それぞれの個室に格子戸の玄関が設けてあり、プライバシーに配慮されている。ベッド、タンス、ソファ、カーテン、写真、書画などで居心地の良い空間が整えられている。使い慣れた品物を活用するよう家族にも働きかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせた危険の防止や自分の力を活かして動けることを支えるための工夫を心がけています。		